

日本近代文学館
2017 年度
夏季企画展

6/24
(土)

9/16
(土)

編集委員

紅野謙介・庄司達也

芥川龍之介「羅生門」とその時代

教科書のなかの文学／教室のそとの文学

二〇一七年に没後九〇年を迎えた芥川龍之介。彼の作品は今なお多くの人々に愛読されています。特に「羅生門」は現在多くの高校教科書に採用されているほか、さかんに映画や舞台・オペラ等の原作とされるなど、芥川文学の代名詞ともいえる作品です。本展では「羅生門」の成立過程のほか、「今昔物語」など、その背景についてもご紹介。文学史をふりかえりながら「羅生門」とその時代をご覧ください。



大正4(1915).10.15「羅生門」執筆のころ

開館時間◎ 9:30～16:30 (入館 16:00 まで)
休館日◎ 日曜、月曜、第4木曜 (7/27、8/24)
会場◎ 日本近代文学館 展示室
アクセス◎ 京王井の頭線「駒場東大前」下車 西口改札徒歩7分
観覧料◎ 100 円



展示内容の詳細は
ホームページにて
ご覧いただけます。



2017年 開館50年

公益財団法人 日本近代文学館
THE MUSEUM OF MODERN JAPANESE LITERATURE
Komaba, TOKYO



153-0041 東京都目黒区駒場 4-3-55
(駒場公園内)

tel 03-3468-4181

<http://www.bungakukan.or.jp/>

教科書のなかの文学／教室のそとの文学 ——芥川龍之介「羅生門」とその時代

第1部 芥川龍之介「羅生門」とその広がり

今や、「教科書のなかの文学」——国語教科書に載る教材ということを通して、芥川龍之介の「羅生門」は日本で学ぶ多くの人々に知られている。1915(大正4)年に発表されたこの作品が、国語教科書に初めて載ったのは、1957(昭和32)年のことだ。第二次世界大戦以前には小説が教材化されることはめずらしかったが、この年、夏目漱石「こころ」や森鷗外「舞姫」と同時に、教科書に採用されたのである。その後、高度経済成長期を迎えた社会を背景に、芥川龍之介「羅生門」は多くの教科書に採用される定番教材への道を歩み始めた。今日においても、その状況は続いている。なかでも「羅生門」は高校一年生を対象とする教科書に掲載され、文学への案内役をつとめてきたのである。

本展は、50年もの間、教材として教室で読み継がれてきた「羅生門」を取り上げ、この小説作品の誕生、背景、作者芥川龍之介の生涯などに光を当て、また、採用された教科書の展示や、二次創作としての演劇、映画、オペラなどの多彩なメディアでの展開について紹介することで、「羅生門」の21世紀における新たな魅力を見出そうとするものである。

(編集委員 庄司達也)

第2部 文学の歴史を眺める——小説を中心に

どんな作家も過去の文学をまったく読まずにゼロから創作することはできない。先行するモデルがあって、それをトレースしながら新しい文学が生み出される。言うならば、文学の歴史は「読むこと」と「書くこと」を順番にくりかえすサイクルのなかで展開されてきたのである。では、芥川龍之介の「羅生門」が登場する以前はどうなっていたのだろうか。小説を中心に文学の歴史をふりかえってみよう。

(編集委員 紅野謙介)

部門構成と主な出品資料

- I 「羅生門」誕生
「羅生門」草稿レプリカ(山梨県立文学館蔵)
「羅生門」関連ノートレプリカ(山梨県立文学館蔵)
雑誌「帝国文学」
初版本『羅生門』『鼻』
「羅生門」出版記念会関連写真 ほか
- II 「羅生門」の背景
井上光圀編『校註国文叢書 今昔物語』
芥川、久米正雄宛夏目漱石書簡レプリカ ほか
- III 芥川龍之介の生涯
芥川龍之介肖像写真
耕牧舎関連書類(写真パネル)
中国旅行中の手帖レプリカ(藤沢市文書館蔵)
『近代日本文芸読本』
「仙人」原稿の自画像(写真パネル、原本個人蔵) ほか
- IV 教科書のなかの「羅生門」
「羅生門」掲載教科書
教科書掲載の芥川作品紹介 ほか
- V 広がる「羅生門」の世界
映画「羅生門」スチール写真(個人蔵)
舞台化「羅生門」パンフレット(個人蔵) ほか

部門構成と主な出品資料

- I 江戸から明治へ、読み物は姿を変えて
仮名垣魯文『安愚楽鍋』 矢野龍溪『経国美談』 ほか
- II 小説とは何か、新しい輪郭を探る
坪内逍遙『小説神髓』『当世書生気質』
二葉亭四迷『浮雲』 幸田露伴『風流仏』 ほか
- III 活字の時代、雑誌と新聞の隆盛
「国民之友」「太陽」「文芸倶楽部」
「少年世界」「朝野新聞」 ほか
- IV 小説が時代の先端だった
国木田独步『武蔵野』、夏目漱石著作 ほか
- V 社会をみだす文学
永井荷風『ふらんす物語』、「滑稽新聞」自殺号
芥川龍之介「將軍」などの初出掲載雑誌
※坪内逍遙・夏目漱石・樋口一葉ほかの複製原稿も展示

関連イベント開催

音楽で出会う芥川龍之介——蓄音機とSPレコードで聴く

講師 ◎ 庄司達也(本展編集委員)
日時 ◎ 8月11日(金・祝)
14:00～15:30
会場 ◎ 日本近代文学館 講堂
参加料 ◎ 1000円
(維持会・友の会 800円)

芥川は音楽鑑賞についての感想を書簡や日記にいくつも書き残しています。芥川が愛した音楽を、SPレコードにてお聴きいただきます。

主な演奏曲

アドルフ・サルコリ「リゴレット」より(ヴェルディ作曲)
三浦環「蝶々夫人」より(ブッチーニ作曲)
ミシェル・ピアストロ「ツィゴイネルワイゼン」(サラサーテ作曲) ほか

申込方法 は お電話(03-3468-4181) かメール(ongaku0811@bungakukan.or.jp)にて

①講座名 ②氏名 ③お電話番号をお知らせください。